

RESAS

を分析してみよう

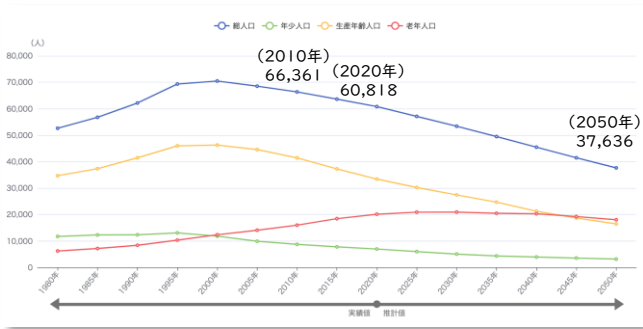
和歌山県
橋本市

RESAS(地域経済分析システム)は、地域経済に関する様々なデータ(産業の強み、人の流れ、人口動態など)をグラフで分かりやすく「見える化(可視化)」したシステムです。データに基づいた地域の実情を把握・分析できるので、ぜひ参考にしてみてください。

人口

<https://resas.go.jp>

RESAS



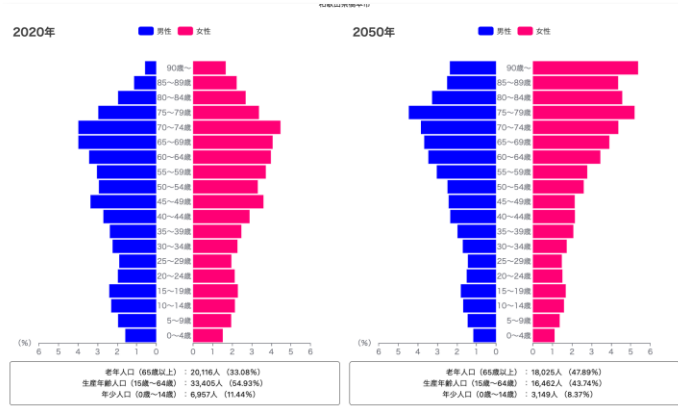
年齢別人口推移

2020年の総人口は60,818人。10年前(2010年)の66,361人と比較して減少しており、今後も減少傾向が続く見込みである。また、年齢別に将来の傾向をみると、年少人口や生産年齢人口は減少傾向、老年人口は緩やかな減少傾向であり、老年人口割合が増加する傾向にある。よって、少子高齢化が一層進んでいく地域である。
※年少人口は15歳未満、生産年齢人口は15~64歳、老年人口は65歳以上をさす。

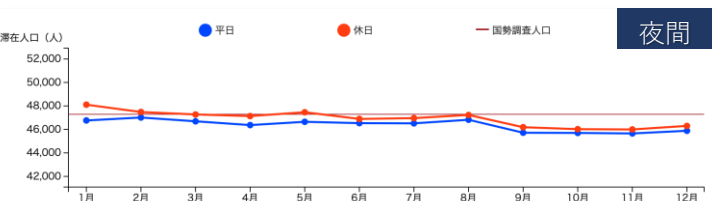
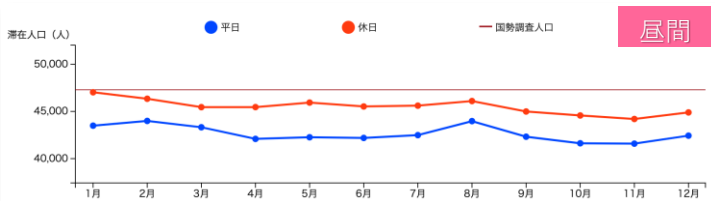
*人口マップ→人口構成→人口推移

人口ピラミッド

現在と将来の年齢別人口構成を示したグラフである。2020年、2050年の人口ピラミッドは共に「つば型」である。老年人口の割合をみると、2020年の33.08%から2050年には47.89%まで増加する。一方、生産年齢人口は2020年の54.93%から43.74%まで減少する見込みである。



*人口マップ→人口構成→人口ピラミッド



*まちづくりマップ→滞在人口率

滞在人口

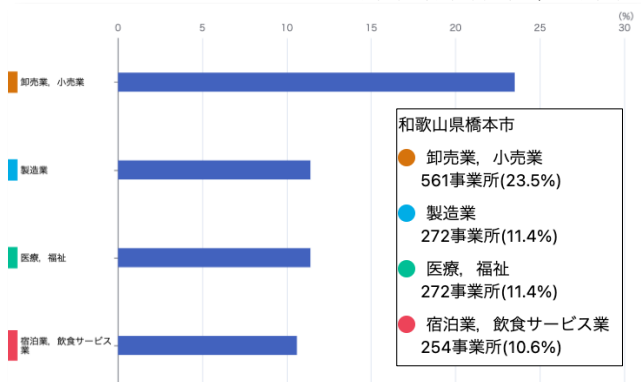
(2022年、上:昼間、下:夜間)

携帯電話の位置情報を元に、市内に滞在している人の数を月毎に示したグラフである。休日昼間の人口は、平日昼間の人口と比べて多いことから、休日昼間は市外から市内への流入人口が、市内から市外への流出人口より多いことがわかる。

※昼間は14時、夜間は20時のデータ

産業構造

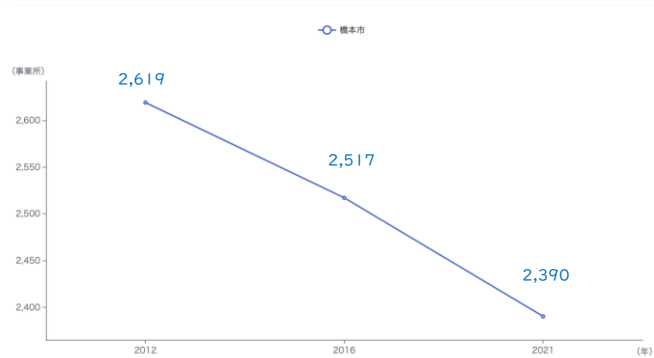
事業所数(事業所単位):2,390事業所



*産業構造マップ→全産業→全産業の構造

事業所数(事業所単位)大分類(2021年)

業種ごとの事業所数を示したグラフである。もっとも多いのは「卸売業、小売業」の561事業所で、全体の23.5%を占めている。その後「製造業」の272事業所11.4%が続く。

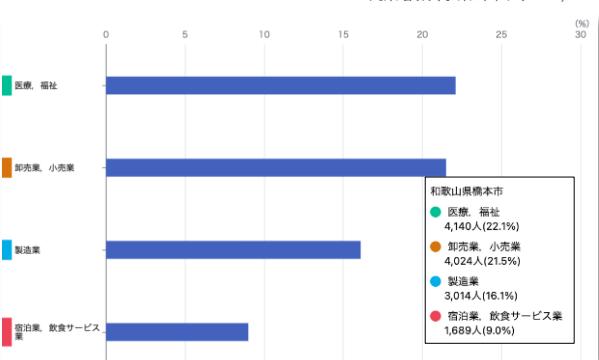


*産業構造マップ→全産業→事業所数

事業所数の推移

事業所数の推移をみる。2021年は2,390事業所。5年前の2016年は2,517事業所だったので、比較すると5%減少している。

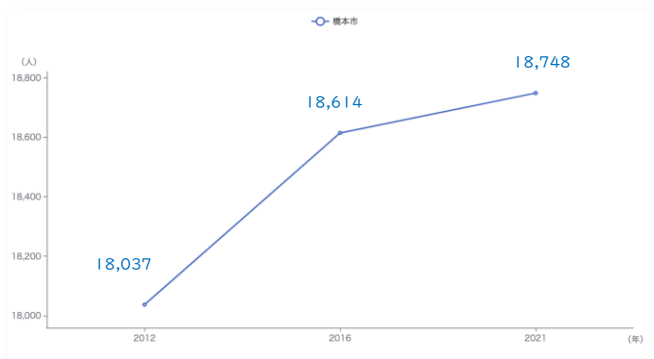
従業者数(事業所単位):18,748人



*産業構造マップ→全産業→全産業の構造

従業者数(2021年)

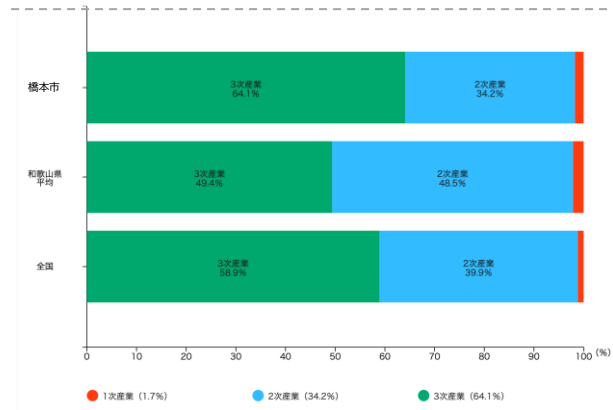
業種ごとの従業者数を示したグラフである。もっとも多いのは「医療、福祉」の4,140人で、全体の22.1%を占めている。その後「卸売業、小売業」の4,024人21.5%、「製造業」の3,014人16.1%が続く。



*産業構造マップ→全産業→従業者数(事業所単位)

従業者数の推移

従業者数の推移を見る。2021年は18,748人、5年前の2016年と比較すると0.7%増加している。



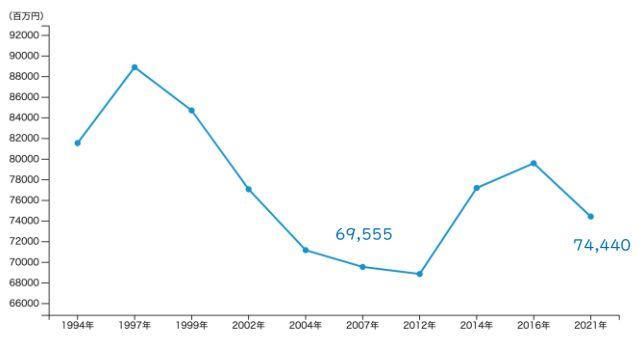
*地域経済循環マップ→生産分析

地域内産業の構成割合

橋本市の産業の構成割合愛媛全国および和歌山県と比較したグラフである。2次産業の割合が34.2%であり、全国の39.9%と比べて低い。一方、3次産業の割合は、64.1%と全国の58.9%に比べて高い。

*1次産業…農業、林業、漁業など
 *2次産業…製造業、建設業、工業など
 *3次産業…商業、金融業、医療・福祉・教育などのサービス業や、外食産業・情報通信産業など

小売業・卸売業



*産業構造マップ→小売・卸売業→年間商品販売額

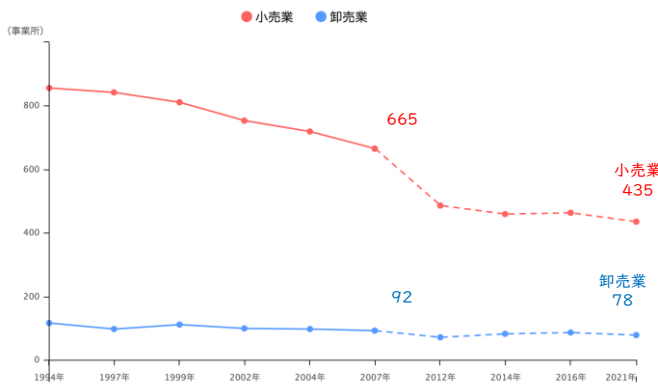
事業所数(小売業・卸売業)の推移

小売業・卸売業の事業所数の推移を示したグラフである。2021年の事業所数は、小売業435事業所、卸売業78事業所である。2007年と比較すると、小売業は34.6%減、卸売業は15.2%減となっている。

*グラフ上の破線は、日本標準産業分類の大幅改定の影響や、「産業統計調査」と「経済センサス活動調査」の集計対象範囲の違い等から、単純に調査年間の比較が行えないことを示している。

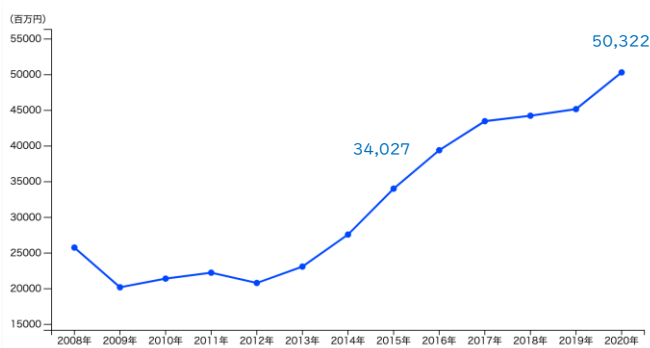
年間商品販売額の推移

小売業・卸売業の年間商品販売額の推移を示したグラフである。2021年の販売額は74,440百万円である。14年前の2007年と比較すると69,555百万円なので、7.0%増である。



*産業構造マップ→小売・卸売業→商業の構造

製造業



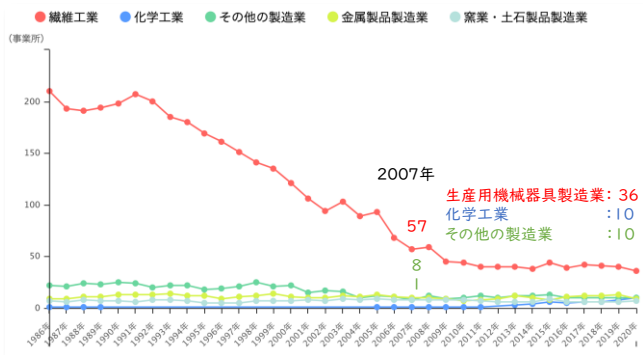
*産業構造マップ→製造業→製造品出荷額等

製造品出荷額等の推移

製造業の製造品出荷額等の推移を示したグラフである。2020年製造品出荷額等は、50,322百万円である。2015年と比較すると34,027百万円なので、47.9%増である。

事業所数 (主要製造業) の推移

主要製造業の事業所数の推移を示したグラフである。①繊維工業、②化学工業、が多い。2007年と比べると、①繊維工業は減少しており、②化学工業は増加している。



*産業構造マップ→製造業→製造業の構造

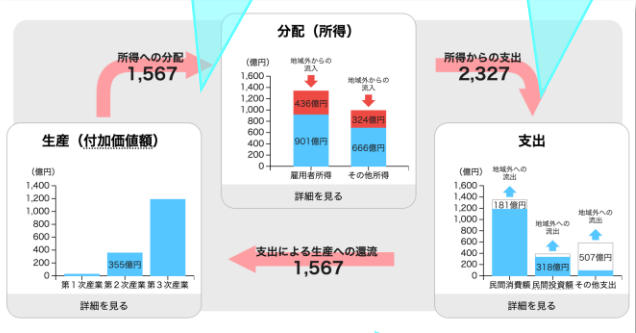
地域経済循環

地域経済循環図 (2018年)

地域内企業の経済活動を通じて生産された付加価値は、労働者や企業の所得として分配され、消費や投資として支出されて、再び地域内企業に還流する。この流れを示したものが地域経済循環図である。

①橋本市の企業は合計1,567億円の付加価値を生み出している。

②付加価値のうち、支出に回されるのは、2,327億円。市外からの流入があるので、付加価値額を上回っている。



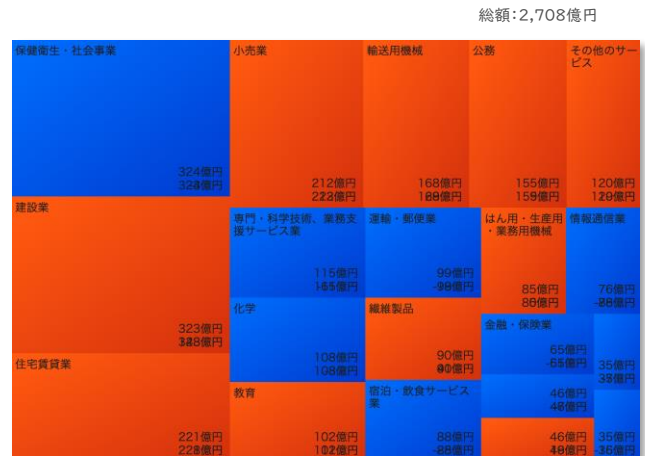
*地域経済循環マップ→地域経済循環図

③市内で支出に使われた金額は1,567億円。市外への流出があるため2,327億円より少ない。

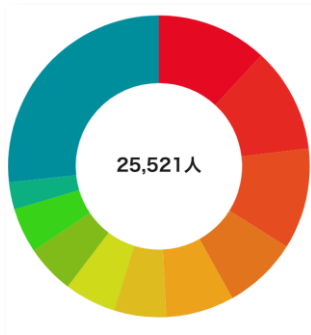
生産分析 (2018年)

左図の「生産(付加価値額)」の内訳を面の大き気で示したグラフである。付加価値額が高いのは「保健衛生・社会事業」「建設業」「住宅賃貸業」である。

なお、グラフの色は、地域外から稼いでいる産業(赤色)と地域外から必要としているものを調達している産業(青色)を表している。



観光

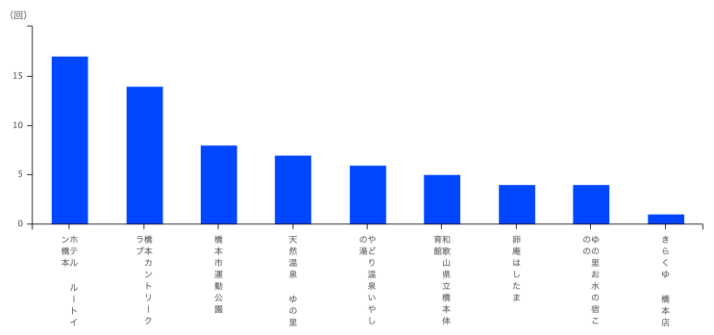


- 1位 東京都 3,030人 (11.87%)
- 2位 大阪府 2,866人 (11.23%)
- 3位 神奈川県 2,763人 (10.83%)
- 4位 兵庫県 2,034人 (7.97%)
- 5位 福岡県 1,872人 (7.34%)
- 6位 埼玉県 1,420人 (5.56%)
- 7位 愛知県 1,413人 (5.54%)
- 8位 北海道 1,335人 (5.23%)
- 9位 和歌山県 1,233人 (4.83%)
- 10位 千葉県 742人 (2.91%)
- その他 6,813人 (26.69%)

*観光マップ→From-to分析(宿泊者)

From-to分析 (宿泊者) (2022年)

居住都道府県別の延べ宿泊者数(日本人)の構成割合を示したグラフである。東京都が11.87%ともっとも多く、大阪府11.23%、神奈川県10.83%が続く。



*観光マップ→目的地分析

目的地検索ランキング (2023年3月 休日)

カーナビで経路検索された回数が多い場所をランキング形式で示したグラフである。「ホテルルートイン橋本」「橋本カントリークラブ」「橋本市運動公園」の検索回数が多い。

発行:橋本商工会議所

〒648-0073和歌山県橋本市市脇1-3-18
 TEL: 0736-32-0004 FAX: 0736-33-3326
 URL: <https://www.hashimoto-cci.or.jp/>

